

交流生む大型分譲地

立地や緑地に評価 契約好調

ポラスグループ

ポラスグループの中央グリーン開発（埼玉県越谷市、中内景太良社長）が開発した千葉県船橋市の大型分譲地「グランマール 船橋二和向台 カームライフ」が、4月30日の第1期販売から順調に販売実績を上げ、今月12、19日に最終6期3棟の販売を始めた。11日までで全62棟中59棟を契約済み。駅に近い立地と住民の交流を促進する様々な取り組みが評価されている。

分譲地名の「グランマール」は「壮大な海」、「カームライフ」は「おおらかな暮らし」をそれぞれ表している。住民が緑地や景観、暮らしをシェア

遊歩道や、防災グッズ

を収納した4カ所のベッチは住民の憩いの場。住民の交流が自然に生まれる仕掛けが随所に見られる。軽自動車1台を配備するカーシェアも導入。住民はセカンドカーとして利用できる。

エリア南側に備わる緑地は周辺住民も利用できる公園。調整池の地下化により上部を緑地に整備した取り組みは全国的にもまれな試みだ。調整池によるエリアと周辺地域の分断

や転落の危険などを解決したほか、コンクリート使用量や搬出土量の大削減を実現した。この取り組みが評価され、同緑地は2021年度グッドデザイン賞に選出された。

分譲地の立地は新京成線二和向台駅から徒

歩約8分と利便性が高い。都市部から離れた自然を感じられる周辺環境も魅力だ。4つのリゾートスタイルに分類される住宅は、全棟耐震等級3相当。3LDK、4LDKが中心で、平屋住宅もある。従来は和室と

ト、広い緑地、防犯カメラによる高い防犯性、カーシェアなどが好評なうえ、東京都内や埼玉に比べると低コストで取得できるとあって、第1期販売から早期契約が続いている。

なる部屋をテレワーク用に仕上げるなど、在宅勤務が増えた新生活様式に対応した間取りも特徴だ。価格帯は3280万〜4880万円（税込み）。周辺相場よりやや高い設定だが、ビッグプロジェクトとして取り組んでいく。



タウングートからエリア内までリゾント感があふれている

開発コンセプト